

河原町埋蔵文化財調査報告書 第11集

鳥取県河原町
河原町内遺跡分布調査報告書

1995. 3

河原町教育委員会

本文目次

I 位置と環境	1～2
II 調査に至る経過	2
III 調査の概要	2
1. 渡一木6号墳(天坪山古墳)	
(1) 概略	2
(2) トレンチ調査状況	2～3
(3) まとめ	3
2. 和奈見所在遺跡	
(1) 概略	8
(2) トレンチ調査状況	8
(3) まとめ	8

挿 図 目 次

挿図1	渡一木6号墳・和奈見所在遺跡周辺遺跡位置図	1
挿図2	渡一木6号墳トレンチ配置図	4～5
挿図3	T-1	6～7
挿図4	T-2	6～7
挿図5	T-3	6～7
挿図6	T-4	6～7
挿図7	和奈見所在遺跡トレンチ配置図	9
挿図8	T-1	10
挿図9	T-2	10

図 版 目 次

図版Ⅰ	渡一木6号墳全景航空写真 渡一木6号墳周辺風景
図版Ⅱ	T-1 T-2 T-3 T-4
図版Ⅲ	和奈見所在遺跡近景 T-1 T-2

表 目 次

表1	渡一木6号墳トレンチ一覧表	3
表2	和奈見所在遺跡トレンチ一覧表	8

序 文

この報告書は、河原中央公園整備事業と県営ふるさと水と土保全モデル事業に伴い実施した埋蔵文化財試掘調査の記録であります。

河原町は、近年各種の開発事業の増加とともに埋蔵文化財発掘調査の頻度も高くなっています。

今回の調査地周辺にも、過去に調査された遺跡・古墳が多く点在しており、文化的遺産の宝庫であります。この調査によりまた一つ郷土の歴史が繙かれたのではないかと思います。

今後は、さらに努力を重ね埋蔵文化財の保護にいつそうの努力を注ぐ所存であります。

尚、調査にあたりましてご理解、ご協力をいただきました関係者の皆様に深く感謝を申し上げます。

1995年3月

河原町教育委員会

教育長 中 村 勝 實

例 言

1. 本報告書は、河原町教育委員会が河原中央公園整備事業と県営ふるさと水と土保全モデル事業に伴い平成6年10月11日から10月31日までと同年10月21日から12月22日までの間にそれぞれ実施した鳥取県八頭郡河原町大字渡一木と和奈見に所在する埋蔵文化財試掘調査の記録である。
2. 調査関係者は次のとおりである。

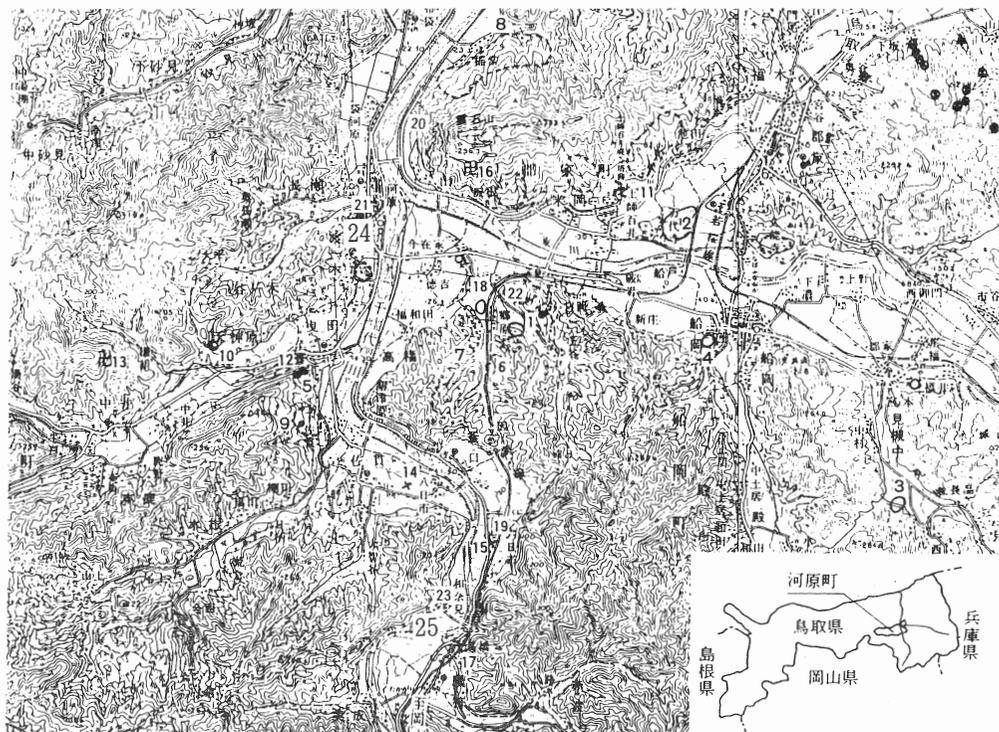
調査団長	中 村 勝 實	(河原町教育委員会教育長)
調査指導	山 柁 雅 美	(鳥取県埋蔵文化財センター)
調査員	中 島 弘 隆	(河原町教育委員会主任)
事務局	原 日出男	(河原町教育委員会教育課長)
	小 泉 悦 則	(河原町教育委員会教育課長補佐)
調査協力	鳥取県埋蔵文化財センター	
3. 発掘調査及び報告書作成にあたっては、鳥取県埋蔵文化財センターの指導と協力を得た。
4. 挿図中の方位は磁北を示す。
5. 挿図中の記号はT：トレンチを示す。
6. 本書は、小泉、中島で協議し、河原町教育委員会が編集、作成した。
7. 発掘調査で得られた日誌・図面・写真等は、河原町教育委員会に保管する。

I 位置と環境

渡一木6号墳は、鳥取県八頭郡河原町大字渡一木に所在し、千代川支流の合流地点の左岸で、眼下に河原集落の街並みと遠くに鳥取市街地を望む標高103mの丸山（現在はお城山展望台河原城が建設されている）の北側に隣接した天坪山に位置している。

当古墳は、渡一木古墳群のひとつで、所在する山の名称から天坪山古墳とも呼ばれる前方後円墳である。

この、渡一木6号墳の周辺には平成4年度に発掘調査が行われ、羽柴（豊臣）秀吉が、鳥取城来攻のおり、その凱陣の本陣を置いた跡と思われる郭、堀切等が検出された丸山城跡や、八上郡十九座のひとつである「久多美神社」があるなど歴史的・文化的遺産の宝庫である。



挿図1 渡一木6号墳・和奈見所在遺跡周辺遺跡位置図

- | | |
|---|--|
| <p>凡 例</p> <ul style="list-style-type: none"> × 遺物出土地 ○ 散布地・集落跡 ▲ 銅鐸出土地 ○ 古墳群 ● 前方後円墳 ● 円 墳 ⊗ 窯 跡 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 郷原遺跡 2. 万代寺遺跡 3. 牧野遺跡 4. 丸山遺跡 5. 獄古墳 6. 郷原古墳群 7. 山手古墳群 8. 稻常古墳群 9. 大平古墳 10. 天神原古窯跡群 11. 土師百井廃寺跡 12. 式内社壳沼神社 13. 羽黒山妙玄寺跡 14. 瓦経出土地 15. 銅鉦出土地 16. 最勝寺 17. 大安興寺 18. 前田遺跡 19. 下中溝遺跡 20. 片山遺跡 21. 丸山城跡 22. 山手森谷上分遺跡 23. 和奈見遺跡 24. 渡一木6号墳 25. 和奈見所在遺跡 |
|---|--|

和奈見所在遺跡は、鳥取県八頭郡河原町大字和奈見に所在し、蛇行して北に流れる千代川の西岸で和奈見集落から少し離れた南側に位置している。

当所在遺跡の周辺には、八上郡十九座のひとつである延喜内社「都波奈弥神社」や、北西に位置する枅形山には阿部善内及びその子孫が居住していたと伝えられる升形城（枅形城）跡があり、さらに南東側には平成6年度に発掘調査され周溝の検出により確認された和奈見1号墳を含む和奈見遺跡があるなど、古くから文化が栄えていたところである。

Ⅱ 調査に至る経過

渡一木6号墳が所在する天坪山は、平成6年度に実施された河原中央公園整備事業の内、植栽事業に伴う埋蔵文化財の発掘調査である。当初は、低木樹の植栽ということで事業主体者である町企画課と町教育委員会で協議がなされたが、事業着手後にベンチが設置され、その脚部分が遺構を破壊する恐れが生じたため、急きょ試掘調査を実施することとなった。

調査対象面積は約1,000㎡で、既にさつき2,970株、梅23本が植栽されていたが、一部を除去し平成6年10月10日から10月31日の間に調査を行ったものである。

和奈見所在遺跡は、県営ふるさと水と土保全モデル事業の実施に伴い、平成6年9月に鳥取県八頭地方農林振興局長より協議を受けたが、周辺の畑地や樹園地に土器片が散布している状況等から検討した結果、平成6年10月10日から10月31日の間に調査を行うことになった。

Ⅲ 調査の概要

1. 渡一木6号墳（天坪山古墳）

(1) 概 略

渡一木6号墳は、埋葬施設である主体部及び周溝等を確認するため、墳頂と墳裾部にかけて4本のトレンチを設定した。試掘調査の面積は合計23.6㎡である。

調査の結果、北側墳裾部で周溝と思われる窪みを少しではあるが確認した。

(2) トレンチ調査状況

T-1 墳頂部のマウンドに設定したトレンチ。表土下0.25mを測り、赤褐色粘質土の地山に達した。主体部等は検出されず、遺物も出土しなかった。

T-2 墳頂部T-1の北側墳裾部からテラス状の平坦面にかけて設定したトレンチ。

表土下0.37mで赤褐色粘質土の地山に達した。トレンチ南部の墳裾部から0.12mと非常に浅い窪みを確認した。かなり削られた周溝の落ち込みと思われる。遺物は出土しなかった。

T-3 墳丘の南側から墳裾部にかけて設定したトレンチ。墳端確認を目的としたトレンチであったが、表土下0.47mで赤褐色粘質土の地山に達し、遺構、遺物はともに検出されなかった。

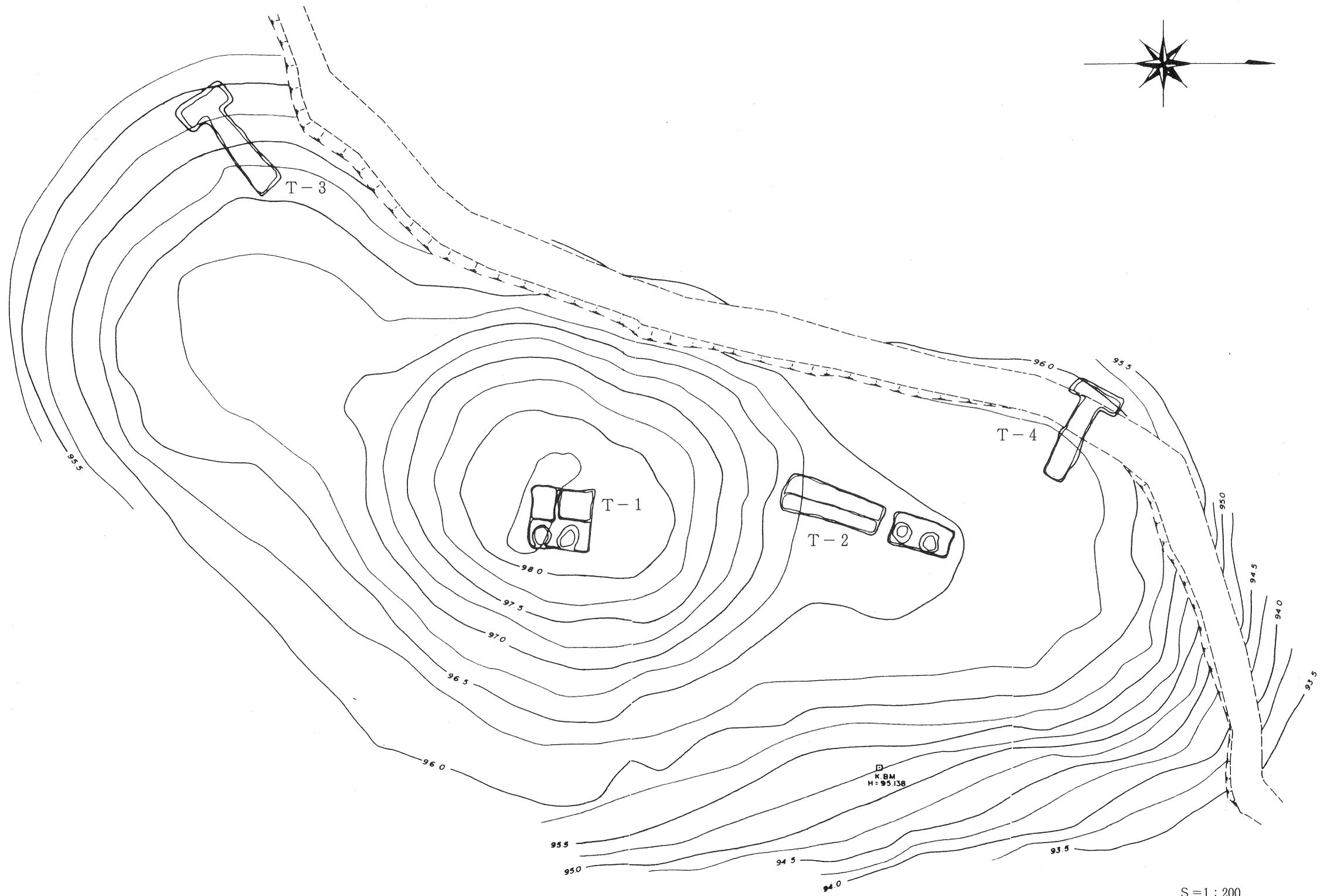
T-4 T-2の西側で、テラス状の平坦面から肩部にかけて設定したトレンチ。T-3と同様に、墳端確認のトレンチであったが、表土下0.41mで赤褐色粘質土の地山に達した。遺構は検出されず、遺物も検出されなかった。

(3) まとめ

今回の試掘調査では、4本のトレンチを設定し調査を実施したが、主体部の検出に至らず、周溝のみの検出にとどまった。ただし、調査範囲も限られ、また、遺物も出土しなかったため、古墳の全容を解明することは不可能であった。従って、古墳の形態等不明な点を残す結果となったが、今後調査の機会を期待し、古墳の全容と併せて周辺の歴史を明らかにしたいものである。

トレンチ番号	遺 構	遺 物	規 模
			幅×長さ (m)
T-1	な し	な し	2.36×2.39
T-2	周 溝	な し	1.48×6.60
T-3	な し	な し	1.05×4.54
T-4	な し	な し	0.88×3.93

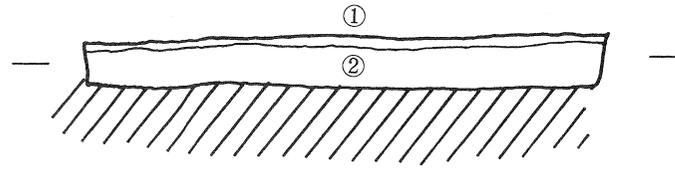
表1 渡一木6号墳トレンチ一覧表



挿図2 渡一木6号墳トレンチ配置図

L = 98.12m

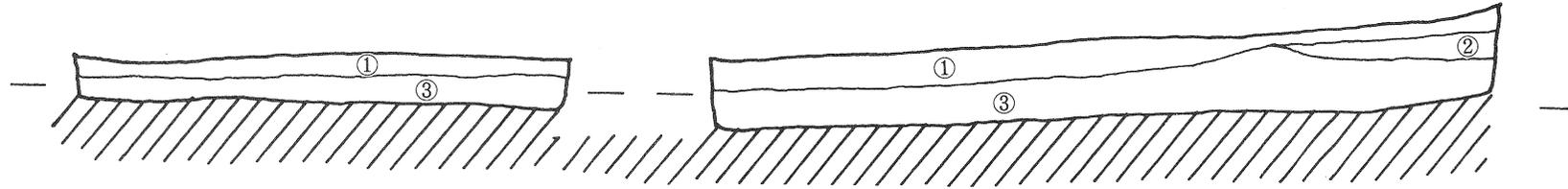
- ① 淡茶色土 (現代土)。
- ② 赤褐色土 (粘質土)。



0 1 m
插图3 T-1

L = 96.42m

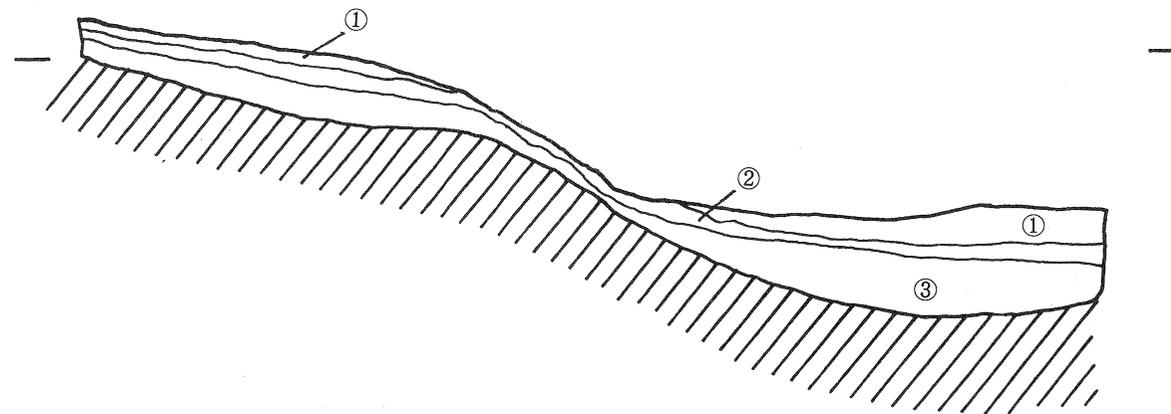
- ① 淡茶色土 (現代土)。
- ② 茶褐色土 (周溝)。
- ③ 赤褐色土 (粘質土)。



0 1 m
插图4 T-2

L = 94.32m

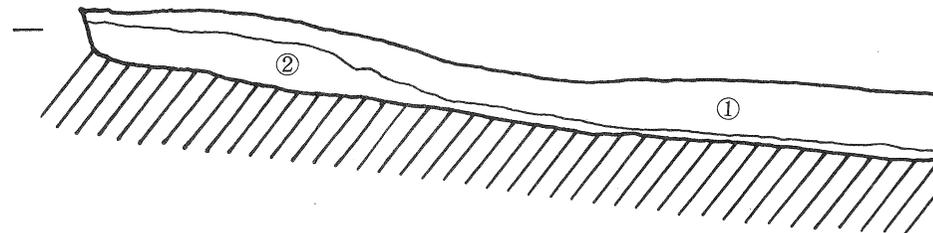
- ① 淡茶色土 (現代土)。
- ② 明茶褐色土 (表土)。
- ③ 赤褐色土 (粘質土)。



0 1 m
插图5 T-3

L = 96.30m

- ① 淡茶色土 (現代土)。
- ② 赤褐色土 (粘質土)。



0 1 m
插图6 T-4

2. 和奈見所在遺跡

(1) 概 略

和奈見所在遺跡は、周辺で、土器片が多数確認されているところから、遺跡の存在が推定されるため、その範囲を確認する目的でトレンチ（テストピット）を2本設定した。試掘調査の面積は合計17㎡である。

調査の結果、遺構・遺物はともに検出されなかった。

(2) トレンチ調査状況

T-1 調査区の南側で、南東から北西（川側から山側に向かって）にかけて水田に設定したトレンチ。表土下0.72mを測るが、多量の石が出土し、水も湧出した。灰白色粘質土が堆積されており、地山の確認はできなかった。

また、底面は、川床状態で、粘質土から砂質土に土層が変化した。遺構・遺物はともに検出されなかった。

T-2 調査区の北側でT-1と同方向で、平行するような形に設定したトレンチ。表土下0.90mを測り、土層の堆積状況はT-1と同様で、多量の水が湧出し、大規模な石も多く出土した。遺構・遺物はともに検出されなかった。

(3) まとめ

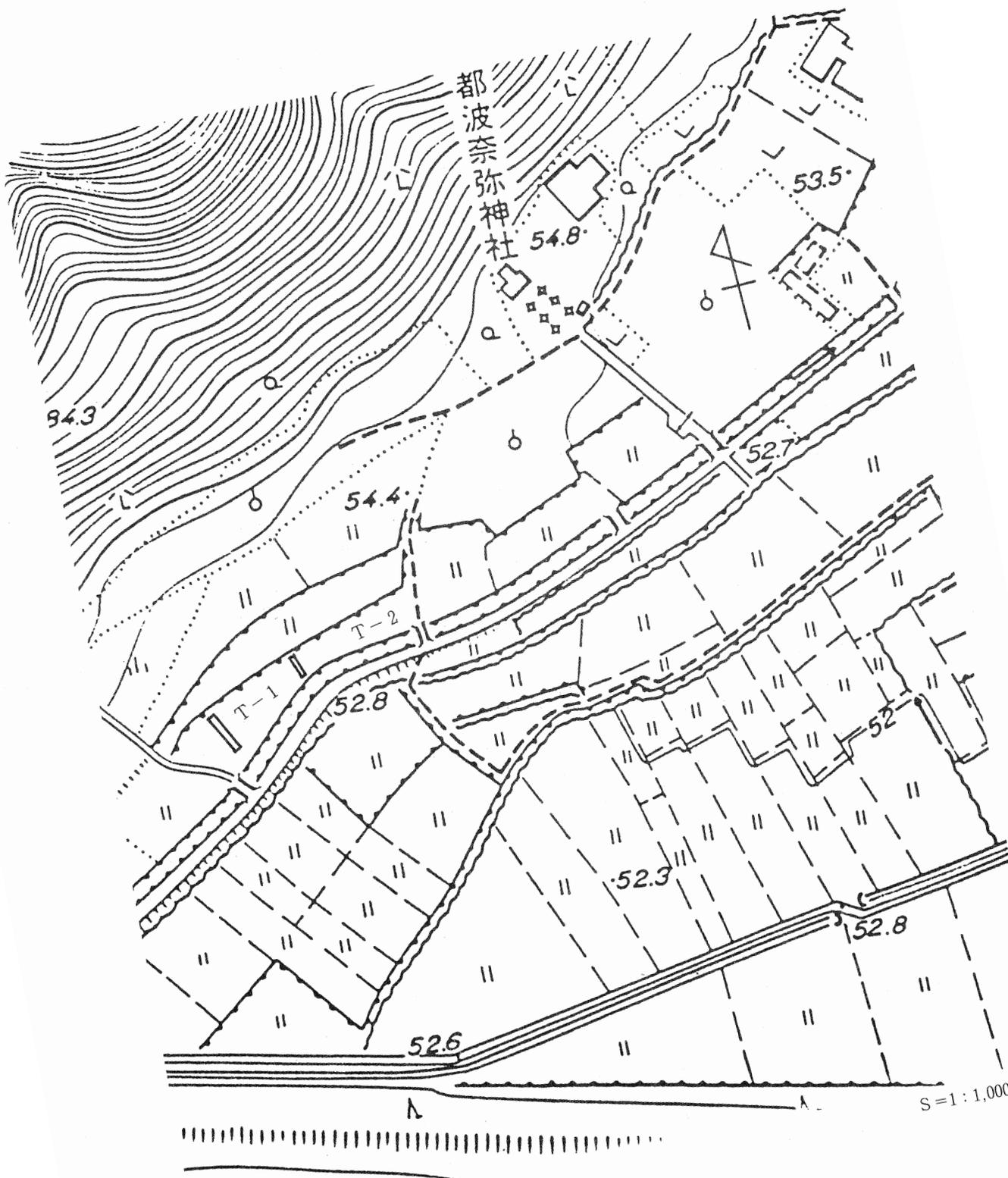
今回の試掘調査では、調査面積が狭いので、テストピットも少なく2本のトレンチを設定し調査を実施したが、遺構・遺物はともに検出されなかった。

周辺の畑地においては、土器片が多数出土している状況であるが、平成5年度に行った発掘調査の結果から見ても、当調査区域で遺構等が検出されなかったことは、当然の結果であると思われる。

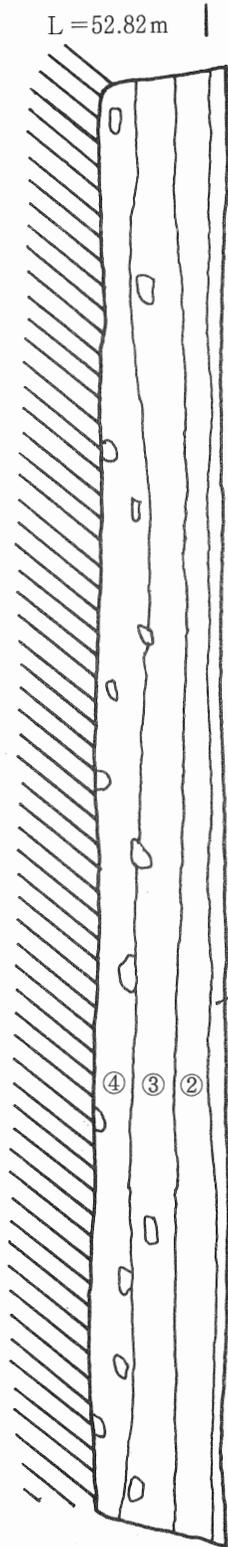
今後は、周辺で出土した土器片散布地を中心に発掘調査が実施されれば、和奈見集落周辺の歴史がいっそう明らかになるだろう。

トレンチ番号	遺 構	遺 物	規 模
			幅×長さ (m)
T-1	な し	な し	1.4×8.0
T-2	な し	な し	1.1×4.5

表2 和奈見所在遺跡トレンチ一覧表

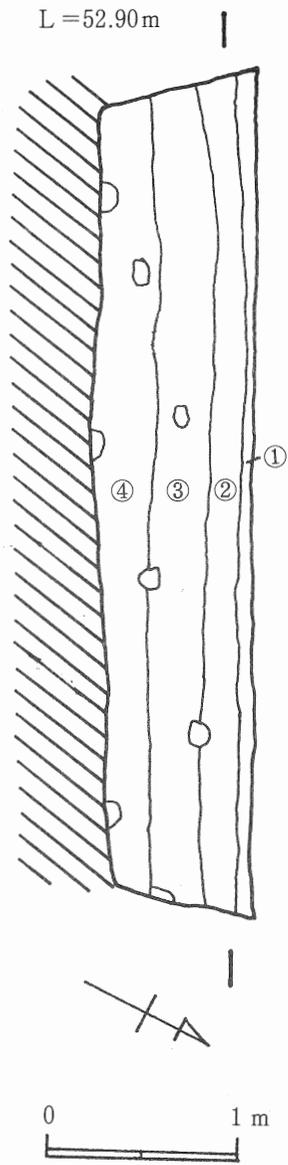


挿図7 和奈見所在遺跡トレンチ配置図



- ① 明褐色土 (耕土)。
- ② 茶褐色土。
- ③ 灰白色粘質土。
- ④ 暗褐色砂質土。
(川原石多数含む)

挿図 8 T-1



挿図 9 T-2

図 版

(I ~ III)



渡一木 6 号墳全景航空写真（真上から）



渡一木 6 号墳周辺風景



T-1 (北東から)



T-2 (南西から)



T-3 (北東から)



T-4 (南東から)



和奈見所在遺跡近景（北東から）



T-1（南東から）



T-2（南東から）

河原町内遺跡分布調査報告書

発行日 1995年3月

発行者 河原町教育委員会

〒680-12

鳥取県八頭郡河原町大字渡一木277-1

TEL (0858) 85-0011

印刷 谷岡印刷

〒680 鳥取市元町126

TEL (0857) 26-2001